第10講　日本仏教の展開

1　仏教の受容

①仏教伝来（6世紀半ば頃）

A　**大乗(だいじょう)仏教〔北伝仏教〕の伝来**

朝鮮の**百済(くだら)**（聖明王(せいめいおう)）から，日本のヤマト政権（欽明(きんめい)天皇）に公伝。

※それ以前にも，大陸・半島からの渡来人の中には私的に仏教を信仰していた人もいた（＝私伝）。

※同じ頃，百済から儒教・道教・法家の思想・漢字なども伝わった。

B　**崇仏(すうぶつ)論争**

538（または552）年の公伝時，**蘇我氏**（崇仏派）と**物部(もののべ)氏**（排仏派）が展開。

※排仏派は「異国からの蕃神(あだしくにのかみ／ばんしん)を崇拝すれば，伝統的な国神(くにがみ)（＝八百万神(やおよろずのかみ)）の怒りを買う」と主張した。

※伝来当初の仏教は，有力豪族による権力闘争の道具にすぎなかった。

②厩戸皇子〔聖徳太子〕の仏教導入（６世紀末～７世紀初め）

A　**厩戸皇子**（574 ～ 622 年）

蘇我氏の血を引く皇族（用明天皇の子）。蘇我馬子が擁立した初の女帝，叔母にあたる推古天皇の摂政・皇太子として，冠位十二階・憲法十七条制定や遣隋使派遣などを行う。

※奈良・平安時代にかけて仏教が定着すると，**聖徳太子**という尊称が贈られ，個人崇拝の対象となった。

B　仏教興隆の詔

物部氏を滅ぼした蘇我馬子・聖徳太子の影響下で，推古天皇が出したもの。これにより崇仏論争は決着し，朝廷は正式に仏教を受容することとなった。

C　寺院の建立

法隆寺〔斑鳩寺〕・中宮寺（奈良県），四天王寺（大阪府）など。

※蘇我馬子は，初の本格的寺院である法興寺〔飛鳥寺〕を氏寺として建立している。

D　『**三経義疏**』の執筆

法華経・勝鬘経・維摩経という３つの経典の注釈書。

※聖徳太子は，自らの死に臨んで「**世間虚仮，唯仏是真**」という境地に至った。

E　**憲法十七条**の制定→初の成文法

日本古来の**和**の精神に，**儒教・法家の思想**とともに**仏教の精神**を組み込んだ。

※第一条「**和**を以って貴しとなし，忤ふることなきを宗とせよ。……」

　第二条「篤く**三宝**を敬へ。三宝とは，**仏・法・僧**なり。……」

　第十条「……われ必ずしも聖にあらず。かれ必ずしも愚にあらず。ともにこれ**凡夫**なるのみ。」

③奈良仏教（8世紀）

仏教は，ヤマト政権が全国を統一して律令国家になると，その支配に利用された。仏教の力で国家を安らかに治めようとする**鎮護(ちんご)国家**思想や，病気平癒(へいゆ)・雨乞(あまご)いなどの**現世利益(げんぜりやく)**が重視され，衆生(しゅじょう)の救済という本来の大乗仏教の思想は軽視された。

※ 玄昉(げんぼう)や道鏡(どうきょう)など，強大な権力を握る僧も現れた。

A　**聖武(しょうむ)天皇**

全国に**国分寺・国分尼(に)寺**を建立，**東大寺**（奈良県）には**大仏〔盧舎那仏(るしゃなぶつ)〕**を造立。

※唐から**鑑真(がんじん)**を招請し，授戒(じゅかい)〔受戒〕制度を確立。

B　光明皇后(こうみょうこうごう)

貧民(ひんみん)・病人を救済するために悲田院(ひでんいん)・施薬院(せやくいん)を設立。

C　**行基(ぎょうき)**

貧民救済施設である布施屋(ふせや)の設置や土木(どぼく)工事の指導など，社会事業分野で活躍。

D　**南都六宗(なんとろくしゅう)**

法相宗(ほっそうしゅう)・華厳宗(けごんしゅう)・律宗(りくしゅう)・三論宗・成実宗(じょうじつしゅう)・倶舎宗(くしゃしゅう)。

※教理研究のための学派にすぎなかったため，並行して学ぶこともできた。
　また，一つの寺院に複数の宗派が存在することもあった。

〈 ***Note*** 〉

２　平安時代の仏教

奈良時代の南都六宗のように経典を学ぶ一般的な**顕教**(けんぎょう)に対し，神秘の教えである**密教**色の強い新たな仏教が登場した。

※平安新仏教（＝**天台宗・真言宗**）は，政治権力と結びついた奈良仏教に対し，**山岳仏教**として世俗を離れ，厳しい修行を通して新たな気風を生んだ。

①天台宗(てんだいしゅう)（９世紀前半〜）

A　**最澄**(さいちょう)〔**伝教大師**(でんぎょうだいし)〕(767 〜 822 年)

近江国(おうみのくに)（滋賀県）の渡来人系の子に生まれる。遣唐使に同行し，帰国後に**天台宗**を開く。

中心寺院は**比叡山延暦寺**(ひえいざんえんりゃくじ)（滋賀県）。主著は『**山家学生式**(さんげがくしょうしき)』『**顕戒論**(けんかいろん)』。

B　**一乗**(いちじょう)**思想**〔**法華**(ほっけ)**一乗**〕

最澄は，現世利益にこだわる南都六宗を差別的と批判，大乗(だいじょう)仏教の代表的経典『**法華経**』の精神こそが真の教えだと説いた。

※ **一切衆生悉有仏性**(いっさいしゅじょうしつうぶっしょう)（＝生あるものは全て仏になる可能性がある）と主張し，仏になることをめざし修行することが，悟りを開く唯一の方法であるとした。

C　**大乗戒壇**(かいだん)の設立

最澄は，正式な僧侶としての資格（＝戒）を授ける戒壇を，新たに大乗戒壇として延暦寺に設けることを朝廷に願い出た。

※天下三戒壇（東大寺・薬師寺・観世音寺）をもつ南都六宗と鋭く対立したが，死の７日後に実現した。

D　密教化の進展

最澄の弟子であった円仁(えんにん)〔慈覚(じかく)大師〕や円珍〔智証大師〕も唐に渡った。帰国後，天台宗の密教化を進め，**台密**(たいみつ)と呼ばれた。

※円仁と円珍の死後，延暦寺の山門派（＝円仁派），園城寺(おんじょうじ)〔三井寺(みいでら)〕の寺門派（＝円珍派）に分裂した。

②真言宗（９世紀前半～）

A　**空海〔弘法大師〕**（774 ～ 835 年）

讃岐国（香川県）の地方豪族の子に生まれる。遣唐使に同行し，帰国後に**真言宗**を開く。中心寺院は**高野山金剛峰寺**（和歌山県）と教王護国寺〔東寺〕（京都府）。主著は**『三教指帰』『十住心論』**。

※唐風書道の名手「三筆」の一人で，漢詩集『性霊集』も有名。初の庶民教育機関である綜芸種智院の設立や，四国八十八カ所の遍路も行った。

B　**密教**

大日如来が自らの悟りを高弟に伝授した神秘の教えとされる。『大日経』を中心に**三密の行**（＝**身**で**印契**を結び，**口**で**真言**〔マントラ〕を唱え，**意**を集中する）を行い，その身のままで仏となる**即身成仏**を説く。

※密教世界を具現化した図を**曼荼羅**〔マンダラ〕という。

C　真言宗の隆盛

空海は，**加持祈禱**によって鎮護国家と現世利益を実現するといい，皇族・貴族の信頼を得た。南都六宗との関係も良好で，**東密**と呼ばれ隆盛した。

③神仏習合の進展

A　**神仏習合**→神道と仏教の融合

奈良時代以降，天照大神や八幡神などの八百万神は，大日如来や阿弥陀如来などの仏が権（＝仮）の姿で現れた**「権現」**であるとの考えが出てきた。このような**仏教中心の神道との融合**を**本地垂迹説**という。

※のち，鎌倉時代後期には，伊勢外宮の神官渡会家行により，神道中心の仏教との融合である反本地垂迹〔神本仏迹説〕の伊勢神道が出現。本地垂迹説をとる山王（一実）神道（天台宗系）や両部神道（真言宗系）と対立した。

B　**修験道**

日本古来の山岳崇拝と山岳仏教が融合。のち，天台宗系の本山派，真言宗系の当山派に組織された。

※修験道の修行者を山伏という。

④末法（まっぽう）思想と浄土（じょうど）信仰（10 世紀後半〜）

10 世紀に入り，皇族・貴族による律令国家体制が衰退した。各地に武士が登場し戦乱が激しくなり，疫病（えきびょう）や飢饉（ききん）も起き続けると，現世での幸福をあきらめ来世を信仰する仏教が流行した。

A　**末法思想**

釈迦入滅（にゅうめつ）後１千年間を**正法**（しょうぼう）（＝教（きょう）・行（ぎょう）・証（しょう）ともに存在する），続く１千年間を**像法**（ぞうほう）（＝教・行のみ），その後１万年間を**末法**（教のみ）とし，日本では 1052（永承７）年から末法の世に突入すると考えられた。

※７世紀に中国の**善導**（ぜんどう）が大成した思想。教えを理解する人々の能力は次第に衰えていく，という仏教的歴史観に基づくもの。

B　**浄土信仰〔浄土教〕**

仏の教えのみが残り，修行の実践（じっせん）や悟りが得られない末法の世においては，現世利益（げんぜりやく）よりも，来世で西方（さいほう）の極楽浄土に往生することが望まれた。

※念仏「南無阿弥陀仏（なむあみだぶつ）」を唱え，**阿弥陀如来**の救済にすがる。

C　**空也（くうや）〔市聖（いちのひじり）・阿弥陀聖〕**（10 世紀半ば）

寺院を拠点とせず全国の市井（しせい）を歩き，経典が読めず自ら学ぶことができない人でも実践できる**称名（しょうみょう）〔口称〕念仏**（＝声に出して唱える）で救われることを説いた。

※のちに京に住み，貧民や病人の世話などをして，人々に尽くした。

D　**源信（げんしん）〔恵心僧都〕**（10 世紀後半）

『往生要集』を著し**厭離穢土（おんりえど）・欣求浄土（ごんぐじょうど）**を説き，穢（けが）れた現世から離れて極楽浄土に生まれ変わることを勧めた。源信は，文字の読める皇族・貴族に対して称名念仏に加えて**観想念仏**（＝阿弥陀如来の姿を思い浮かべる）を勧めた。

※『往生要集』は，渡宋した僧により中国にももち込まれ，広く読まれた。

〈*Note*〉

３　鎌倉時代の仏教

初の武家政権である鎌倉幕府がつくられ，各種産業が発達し庶民が台頭した鎌倉時代には，新たな勢力である**武士・庶民の救済要求に応える教え**が必要となった。**鎌倉新仏教**の特色は，易行（いぎょう）・選択（せんじゃく）・専修（せんじゅ）の３つ。誰もが解りやすく，誰もが実践でき，誰もが救済される，すなわち大乗思想を徹底したものであった。

①浄土宗（12世紀後半～）→念仏宗・他力本願

A　**法然**（ほうねん）〔源空（げんくう）〕（1133～1212年）

美作国（みまさかのくに）（岡山県）の地方武士の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，**浄土宗**を開く。中心寺院は知恩院（ちおんいん）（京都府）。主著は『**選択本願念仏集**（せんじゃくほんがんねんぶつしゅう）』『一枚起請文（きしょうもん）』。

B　**専修念仏**

一切の修行・寄付行為などを否定し，ただ**念仏「南無阿弥陀仏」**を唱えることで女性・悪人も平等に救われると説いた。

※戒律にこだわる奈良仏教に攻撃され，朝廷により四国に流罪となった（のち許され帰京）。

②浄土真宗〔一向宗〕（13世紀前半～）→念仏宗・他力本願

A　**親鸞**（1173～1262年）

山城国（京都府）の貴族の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，法然の門を叩き，**浄土真宗〔一向宗〕**を開く。中心寺院は東本願寺・西本願寺（京都府）。主著は『**教行信証**』。弟子の**唯円**が『**歎異抄**』を残す。

B　**報恩感謝の念仏**

念仏「南無阿弥陀仏」は往生の手段ではなく，すでに救われていることへの感謝として唱えるものとした。

C　**非僧非俗**

師の法然に連座し北陸に流された後，関東で自身を「僧と俗人の中間」として，戒律で禁止されていた肉食妻帯を肯定し，布教に努めた。

※親鸞は「愚禿親鸞」と名乗るほど，**凡夫の自覚**があった。

D　**悪人正機説**

「善人なをもて往生をとぐ，いはんや悪人をや」（善人が往生できるなら，悪人はなおさら往生できる）。

※凡夫の自覚をもつ人間を悪人とし，悪人こそが阿弥陀如来にひたすらすがることで救われると説いた。

E　**絶対他力・自然法爾**

親鸞は，往生に努力は関係なく，全て阿弥陀仏の力とはからいであるから，自然のままに任せるべき，と考えた。

F　一向一揆

親鸞の教えは，平易な御文〔御文章〕形式で布教した本願寺８世蓮如（室町時代）や，11世顕如へと引き継がれ，一揆を起こすこともあった。

③時宗（13世紀後半～）→念仏宗・他力本願

A　**一遍**〔智真〕（1239～89年）→**遊行上人・捨聖**

伊予国（愛媛県）の地方武士の子に生まれる。当初は天台宗を学び，のち時宗を開く。中心寺院は清浄光寺〔遊行寺〕（神奈川県）。江戸時代に『一遍上人語録』がまとめられる。

B　**遊行**

一遍は，浄土信仰の先駆者であった空也（平安時代）の影響を強く受け，彼と同じように全国を巡り歩いた。

C　**踊念仏**・賦算

一遍は，信心・不信心に関係なく，ただ念仏を唱えさえすれば救われると

説いた。そして，念仏を唱えながら踊ったり，念仏札を配りながら，弟子たちと各地を回った。

④臨済宗（12 世紀末～）→禅宗・自力開悟

A　**栄西**（1141 ～ 1215 年）

備中国（岡山県）の神職の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，宋に渡航し，帰国して**臨済宗**を開く。中心寺院は建仁寺（京都府）。主著は『**興禅護国論**』『出家大綱』『喫茶養生記』。

B　**看話禅**

公案と呼ばれる禅問答を考え悟りに至る方法論は，自律的な武士の気風と合致し，とくに鎌倉幕府に積極的に受け容れられた。

⑤曹洞宗（13 世紀前半～）→禅宗・自力開悟

A　**道元**（1200 ～ 53 年）

山城国（京都府）の上級貴族の子に生まれる。比叡山延暦寺で修行後，宋に渡航し，帰国して曹洞宗を開く。中心寺院は**永平寺**（福井県）と総持寺（神奈川県）。主著は『**正法眼蔵**』。弟子の懐奘が『正法眼蔵随聞記』を残す。

B　黙照禅→**只管打坐**

道元は，ひたすら坐禅に打ち込めば誰もが悟りの境地に達することができると説き，「人々皆仏法の器なり」という言葉を残した。

C　**身心脱落**

ひたすら坐禅することによって身も心も束縛から解き放たれ，ありのままの境地に至ることができる，とした。

D　**修証一等〔修証一如〕**

坐禅の修行は単なる悟りの手段ではなく，修行そのものが悟りの証であるとした。

⑥日蓮宗〔法華宗〕(13世紀半ば～）→題目宗・法華経至上主義

A　**日蓮**（1222～82年）

安房国（千葉県）の漁民の子に生まれる。地元の清澄寺や比叡山延暦寺で学んだ後，日蓮宗〔法華宗〕を開く。中心寺院は久遠寺（山梨県)。主著は『**立正安国論**』『**開目抄**』『勧心本尊抄』

B　**唱題→題目「南無妙法蓮華経」**

日蓮は，『**法華経〔妙法蓮華経〕**』だけが，末法の世を救う釈迦の究極の教えを伝える唯一の経典であると説いた。

※唱題により，永遠の真理の象徴である久遠実成の仏と出会い，誰もが現世に浄土を見て，即身成仏できるとした。

C　**四箇格言・折伏**

辻説法で「念仏無間，禅天魔，真言亡国，律国賊」という激しい他宗批判と，強引な自宗への勧誘を行った。

D　**法華経の行者**

日蓮は，他宗批判だけでなく権力者への提言も遠慮なく行ったので，伊豆・佐渡に流されるなど，強烈な迫害・弾圧にあった。しかし，そもそも『法華経』には「これを広めようとする者は法難を受ける」とあったので，それに負けず教えを実践し広める，という使命感を強くもつようになった。

第10講　倫理確認テスト

1　日本に仏教を伝えた，朝鮮半島の国とは？

①　高句麗　　②　百済　　③　新羅　　④　高麗

2　聖徳太子が著した，経典の注釈書とは？

①　三経義疏　　②　十七条憲法　　③　山家学生式　　④　三教指帰

3　奈良時代の仏教界で活躍した日本人としてふさわしくない人物を一人選べ。

①　聖武天皇　　②　光明皇后　　③　行基　　④　鑑真

4　天台宗を開いた最澄の贈り名とは？

①　伝教大師　　②　弘法大師　　③　慈覚大師　　④　智証大師

5　真言宗で最高仏とされたものは？

①　釈迦如来　　②　薬師如来　　③　阿弥陀如来　　④　大日如来

6　古来の山岳崇拝と山岳仏教が結びついて生まれた宗教とは？

①　道教　　②　陰陽道　　③　修験道　　④　浄土教

7　『往生要集』を著した僧とは？

①　空海　　②　空也　　③　源信　　④　一遍

8　以下のうち，念仏宗ではないものを一つ選べ。

①　浄土宗　　②　浄土真宗〔一向宗〕　　③　時宗　　④　日蓮宗〔法華宗〕

9　臨済宗の開祖は？

①　法然　　②　栄西　　③　道元　　④　一遍

10　天台宗や日蓮宗で最重視された経典とは？

①　法華経　　②　勝鬘経　　③　維摩経　　④　大日経

解答

1	②	2	①	3	④	4	①	5	④
6	③	7	③	8	④	9	②	10	①